

「第8回阿見町道の駅整備事業検証委員会」議事概要

審議会等の名称	第8回阿見町道の駅整備事業検証委員会
開催日時	令和3年2月5日(金) 午後2時00分から午後2時40分
開催場所	阿見町役場 4階 全員協議会室
議 題	(1) 検証結果報告(答申)
公開・非公開の別	公開 *傍聴者4名
議事結果	<p>【出席者】 (委員) 流通経済大学 名誉教授 香川 眞 茨城大学農学部 准教授 牧山 正男 橋本会計事務所 橋本 英之 (一社)茨城県建築士会 稲敷支部長 新田 孝司 (一財)茨城県建設技術公社 常務理事 猿田 文彦 元(株)JTB 茨城南支店営業担当課長 宮寄 眞二 阿見町金融団(常陽銀行阿見支店長) 国井 武 (町) 千葉 繁 町長 小口町長公室長 政策企画課:糸賀課長、糸賀係長、塚原主事、松本主事</p> <p>【次第】 1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 町長あいさつ 4. 検証結果報告(答申) 5. その他 6. 閉会</p> <p>【会議の概要】 1. 開会 2. 委員長あいさつ みなさん、こんにちは。開会にあたり、一言、ごあいさつ申し上げます。 今日で、8回目の委員会になります。 これまで、7回にわたる委員会では、委員の皆さま、それぞれご専門の立場から貴重な議論が交わされました。事務局による取りまとめの作業も無事終了し、本日、8回目の委員会にて、町長への答申の運びとなりました。 これまで、ご努力頂きました委員の皆さま、事務局の皆さま、そして見守っていただいておりますまちの皆さまに感謝いたします。 新型コロナウイルス感染流行の中での取り組みとなりましたが、どうか、予定</p>

どおりに答申までこぎつけられましたこと、皆さまのご協力のおかげです。ありがとうございます。

3. 町長あいさつ

町長の千葉でございます。

開会に先立ち一言、ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様におかれましては、平成 31 年 1 月 29 日の第 1 回検証委員会において検証内容を諮問させていただいてから、約 2 年間にわたり、大変お忙しい中、委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございました。

また、香川先生におかれましては、委員長として委員会の円滑な運営にご尽力いただき感謝申し上げる次第です。

特に昨年からは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会議の開催にも影響が及び、会議が長引いたことお詫び申し上げます。

現在、当町のコロナウイルス感染者が昨日までで累計 134 名です。1 月だけで 63 名ということで、1 ヶ月で半数程度感染者がでている状況です。感染拡大が広まっている状況で、日夜当庁においても、感染拡大防止のために取り組んでいるところでありますが、中々収まらない状況です。このような状況の中で、私が町長に就任して 3 年になりますが、経済は滞りなく回さないといけなく、その中で私が重要視しております「特産品の開発」ということで、頑張っている状況です。常陸秋そばがかなり有名になってきておりまして、乾麺等の消費拡大を図っているところです。また今月末には、当町で初めてとなるお酒が完成します。ミルキークイーンを使用したお酒でして、東京農業大学と連携協定を結んでおり、「プリンセス・ミチコ」という薔薇の酵母を用いています。これは全国の自治体の中で初めての試みです。このお酒を、疲弊した飲食店に振舞酒ということで、無料で進呈します。後日、お披露目させていただきます。また、ふるさと納税の返礼品が 100 を超え、これから真価が問われる状況です。このような中で、建物が先か、特産品が先かというご議論もありました。少しずつ特産品ができてきているという現実があります。

本日いただく答申は、皆さまの様々な角度からのご意見が寄せられた答申でありますので、真摯に受け止めさせていただき、今後、道の駅の建設か、そうではないという議論に発展していき、結論を出していきたいと考えています。

私が一番大事にしていることは民意です。今回の皆さまの答申を受けまして、庁議に諮り、職員の意見も吸い上げたいと考えています。現在、新型コロナウイルス感染症も含めて、財政状況は大変厳しいです。10 年後には、クリーンセンターの建設で 90 億円～100 億円掛かるような状況もあります。このような中で、しっかりと議論し、結論に結び付けていくことが、皆さまに報いることだと考えています。

今後とも、皆さまのご指導をいただきますようお願い申し上げます。また、このような状況ではありますが、皆さまのご健勝、ご活躍をご祈念申し上げて、ごあいさつとさせていただきます。

本当にありがとうございました

4. 検証結果報告（答申）

【香川委員長による報告書の概要説明】

説明内容は以下のとおり。

お手元の報告書に基づいて概要を説明いたします。

この報告書は5章立てになっております。

まず、第1章が「背景と委員会の設置」になります。

平成30年3月20日に就任した千葉町長は、阿見町が平成22年度から進めてきた道の駅整備の現計画について、将来のまちづくりを見据え、一度立ち止まって、慎重に再検討する必要があるとの認識のもと、平成31年1月29日に阿見町道の駅整備事業検証委員会を設置し、平成29年度までの阿見町追原地区における道の駅の整備及び運営準備に関する事業の検証に着手しました。

また、当検証委員会は、阿見町道の駅整備事業検証委員会要綱にその趣旨と所管事項が示されていますが、検証に当たっての前提条件として次の3点を確認しています。「1. 道の駅を再検討（凍結）する判断は、町長選挙を経て意思決定された政治判断であり、その適否は当検証委員会の検証事項には当たらない。」「2. 道の駅自体の要・不要については、道の駅凍結に至る平成29年度までの事業過程の検証を委ねられた当検証委員会としては判断できるものではない。」「3. 今後、凍結した道の駅を進めるかどうかについては、町長が判断するものである。」

委員の構成については、報告書に記載されているとおり、7名の委員で構成されております。猿田委員につきましては、前任の藤田委員を引き継ぐ形となっております。

次に、第2章「阿見町追原地区における道の駅整備事業の経緯概要」になります。

大まかな流れは次のとおりです。

平成22年度、役場内で検討を開始。平成23年度、道の駅準備検討委員会が発足。平成24年度、基本構想策定。平成26年度、基本計画策定（予定地・追原地区）。平成27年度、現況測量・基本設計等・埋蔵文化財発掘調査。平成28年度、用地測量等・指定管理予定者公募（㈱ファーマーズ・フォレストに決定）。平成29年度、実施設計・用地買収・埋蔵文化財発掘調査。

次に、第3章「町長からの諮問内容」になります。

当検証委員会に千葉町長から示された具体的な諮問内容は、(1) 場所について、(2) 整備時期について、(3) 建設費について、(4) 運営体制について、(5) その他、道の駅の整備及び運営準備に関し、必要と認められる事項について、の5点になります。これらについて、平成31年1月29日の第1回検証委員会から令和3年2月5日まで合計8回の検証委員会を開催し検証しました。5点目の「その他、道の駅の整備及び運営準備に関し、必要と認められる事項について」につきましては、それ以前の4点の結果を踏まえての総括になっています。

次に、第4章「検証の結果」になります。

それぞれ、【背景】【指摘】【結論】の3つの柱を用意して、検証結果を整理しています。【背景】の部分は事実関係がどうだったかについて明らかにしています。【指摘】は、それを踏まえての各委員からの指摘をまとめています。【結論】は、それらを議論した結果をまとめていま

す。【背景】【指摘】は省略させていただいて、【結論】のみ読み上げます。

(1) 場所について「追原地区以外に適切な候補地があるのではないか。」に対する結論は、「場所の選定に至る過程については、観光産業の発展に主眼を置き、予科練平和記念館とあみプレミアム・アウトレットとの誘導連携、町外からの来町者の回遊性を重視するという、町としての当初の道の駅整備の目的や考え方の整理に基づけば、国道125号バイパスと県道竜ヶ崎阿見線バイパスの交差点にあり、各々将来の計画車線数は4車線の幹線道路として、多くの交通量が見込まれる追原地区は、来町者の回遊性を促すポイントとしても相応しいと考えられ、妥当な選定結果であったといえる。このことは、平成29年3月に策定した阿見町観光振興基本計画においても追原地区の道の駅が位置付けられていることから、町として観光を重視し、上位計画との整合が図られていたといえる。しかし、候補地を選定する過程においては、施設規模、運営体制、建設費用、採算性を踏まえ、公共の福祉も含めた町民への利益と効果について計画段階で議論する必要があったと考えられるが、その点が不十分なまま計画策定が進められてきた。」になります。

(2) 整備時期について「今整備する時期なのか、農業等の振興を図ったうえ、特産品を生み出してから取り組むべきではないか。」に対する結論は、「整備時期については、町を取り巻く状況や整備目的、将来構想などから総合的に判断し、予算も含めた議会承認の下に整備の着手に至っている。観光や産業の起爆剤として道の駅整備は、一つの方法だったといえる。ただし、道の駅を契機とした特産品開発の具体的なプランは描けていなかった。整備計画と同時並行的に特産品開発が進んでいけば、関係者との連携を深められていた可能性もある。平成29年に指定管理予定者となった㈱ファーマーズ・フォレストは、生産者等を集めた説明会を行っており、町内外から多くの参加があり注目度の高さが伺える。品揃えを阿見町の特産品で揃えることができたかどうかについては、季節的な面から阿見町産で全て賄うことは難しいことから、県内の特産品を含める形で検討が進められていた。また、阿見町の新しい特産品の開発を進める計画は存在したが、具体的な地元の生産者との協議は説明会後の調整事項であり、事業凍結によって中断となっているため、町内生産者等の参画がどの程度であったかを確認することはできなかった。」になります。

(3) 建設費について「20億円以上の建設費（整備費）について、規模やグレードなどは妥当なのか。」に対する結論は、「建設費は、規模やグレードに比例する。また、トイレ休憩施設、駐車場といった公共的なスペースは全面交通量からその規模が決まってくる。当施設の整備内容における土木造成費、湧水対策費及び建築費は、公共事業における一般的な土木建築費の範囲である。また、湧水対策の調査・検討も慎重に進められており、その工法も妥当性が認められる。近年県内で整備された

道の駅と比較しても平均的な施設規模であり、町が追原地区において20億円を整備費総額の目安として設定していたことは、標準的であったといえる。しかしその一方で、20億円を投じて道の駅を整備することの意義、経済効果について町民への説明が十分ではなかったことが、政治的判断の下、道の駅凍結見直しに至る原因となっており、町は今後の教訓と捉えるべきものと考えます。」になります。

(4) 運営体制について「JAや商工会、地元生産者が主体となった運営方法もあるのではないか。」に対する結論は、「指定管理予定者の公募に際して町側で説明会を実施しており、広く参画する機会を作っていた。それ以前にもJAや商工会の代表者が検討委員会等の委員に加わった中で、議論がすすめられてきたが、結果的にJAや商工会からの応募には至らなかった。それについては各々の事情と判断によるところである。応募のあった7者のうち1者は、地元生産者団体であったが選定には至っていない。このような事実関係に基づけば、JAや商工会、地元生産者が主体となった運営については、当時の状況としては難しかったといえる。JAや商工会等は道の駅へ物を納品する立場に徹し、運営主体となることには慎重な姿勢だったことが伺える。仮に第三セクター方式として町が積極的にJAや商工会等を巻き込み、組織体制を構築してもそれは行政主体の第三セクター方式（経営責任は行政）となるだけであり、先行実施した社会実験の結果等を踏まえ、第三セクター方式が気運醸成や地域産業の活性化には繋がりにくいとした当時の町としての判断には、一定の妥当性が認められる。」になります。

以上の4点がそれぞれの結論になります。

最後に、第5章「検証結果に基づく提言（総括）」になります。町長からの諮問事項は具体的に4点でありましたが、もう1点「その他、道の駅の整備及び運営準備に関し、必要と認められる事項」も含め全体的に、以下のように提言いたします。

阿見町が平成29年度までに進めてきた追原地区における道の駅整備計画については、「場所」、「整備時期」、「建設費」、「運営体制」の4つの視点から検証した結果、当時町が観光振興の課題と将来展望を踏まえ、交通網の発展や企業立地等の町を取り巻く環境変化を好機と捉え、情報発信と地域活性化の拠点として道の駅整備を進めてきたその考え方及び手続きには、合理性があり妥当だったといえる。

町長の判断による凍結（中断）は政治的判断であり、その根幹にあるのは民意であると考えられる。

施設規模、運営体制、建設費用、採算性を踏まえ、公共の福祉も含めた町民への利益と効果について計画段階で議論する必要があったが、その点が不十分なまま計画策定が進められてきたところは問題点として指摘できる。

町では、道の駅整備計画は構想段階より関係予算の審議も含め町議会の

信任を得て事業を進めてきたが、町長選挙の争点となり、凍結（中断）に至ったところに、町民全体が直接的・間接的な利益を実感しづらい事業を推進する難しさが現れている。

このことを教訓とし、今後町が道の駅整備のような大規模事業を行う際は、計画段階より町民ニーズを把握し、町にかかる財政負担等を明らかにしながら、その結果として得られる町民の利益を広く丁寧に説明し、納税者である町民の理解を得て進めていくことが求められる。

今般の道の駅整備計画においては、民意を把握し、町民への説明責任を果たし、その理解を得ながら進めるプロセスが不足していたことは否めない。その結果が、凍結（中断）に繋がったと考えられる。

このような実情に対処することが、まさに政治課題といえる。

以上が、総括としての結論になります。報告書の別添資料が「1.各委員における検証結果の整理」「2.会議記録（第1回から第7回）」「3.検証に使用した関係書類（会議資料）」の3点になります。

【報告書の概要説明の後、香川委員長から千葉町長に対して、報告書が手渡された】

5. その他

各委員から一言ずつあいさつをいただいた。各々のあいさつの内容は以下のとおり。

（牧山委員）

私自身、運営検討委員会の委員長をしております、道の駅を進める立場にありました。今回の一度立ち止まって見直すという委員会の一員に、私を入れるという町長の判断は、かなり勇気のいることだったと、私自身捉えています。

そのような立場から、勝手なことも含め、色々と申し上げてきましたが、本日このような形で纏めるに至った結果に、微力ながら関わったことを誇りに思います。

平成 22 年頃と比較すると、県内の道の駅の情勢は大きく変化しました。その当時は、日立市の「道の駅 日立おさかなセンター」がなく、潮来市の道の駅が一番新しく、県内に 8 つしか道の駅がなかった状況です。その後、日立市、常陸大宮市、筑西市に道の駅ができて、道の駅後進県だった茨城県も、大分その状況から脱してきていると思います。

そのことを含めて、今後どうされるかにつきましては、色々と判断があるかと思いますが、是非とも、阿見町を愛するものとして、より良い阿見町になるような判断を、道の駅に限らず、ご検討いただければと思います。よろしくお願いします。

（橋本委員）

本日は町長が出席されておりますので、町長にいくつかのお願いをして、あいさつにかえさせていただきたいと思います。

この委員会が発足しました平成 29 年 1 月と現時点では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、社会的・経済的環境は劇的に変化してしまいました。このようなアフターコロナ時代における阿見町の道の駅

のあり方について、振出しに戻って、一から検討をお願いしたいと思います。

町長は道の駅を凍結しましたが、その判断は、結果としまして、大正解だったと私は思っています。また、凍結したことは、町民に対しての大成果ではないかと思えます。

次に、先ほど町長からもありましたが、町の財政状況は非常に厳しい状況です。特に阿見町は、経常収支比率が 0.94 と非常に悪い状況です。その中で、新型コロナウイルス感染症の拡大ということで、今後の町税の落ち込みは避けられないと思えます。また、この回復にはかなりの時間を要すると思えます。阿見町の一般会計の規模は約 170 億円程度ですが、借入債務が 150 億円あり、財政調整基金は 20 億円程度しかありません。このような財政状況の中で、しっかりと見極めをお願いしたいと思います。

以上、私からのあいさつとなります。

(新田委員)

専門的な意見を述べるまでもない非常に難しい問題だと実感いたしました。結果は総括の内容どおりだと思いますが、今後、町長に判断いただくということで、阿見町を良い方向に引っ張ってほしいと思えます。以上です。

(猿田委員)

私は、今年度の 4 月から委員ということで、まとめの段階に入ってから参加で、お力になれたかは分かりませんが、前任の藤田常務とも色々話をしました。今回の結果を踏まえて、藤田常務にも報告したいと思えます。1 年間ありがとうございました。

(宮寄委員)

観光の側面から、整備推進会議から携わってきましたが、どのようなことをしたら、阿見町に経済効果を生めるのか、そのようなことを考えてきました。

この委員会の一員に私が入っていることが、最初は不思議だったのですが、結果的に、先輩方に教えていただいて、なんとかここまでやってこれたことは、私自身も非常に嬉しいことです。

これから、道の駅に限らず、阿見町で何をどのようにしたら、もっと良い町になるのかを少しずつ考えていければと思えます。ありがとうございました。

(国井委員)

私は、金融の観点から参加させていただきました。何を目的にやられるのか、そして、平成 25 年の提言書にもありましたが、どのような特色をだすのか、このようなことを踏まえて、町もしくは町民に対するメリット・利益がどこにあるのかということを主眼に置きながら、参加させていただきましたが、議論していく中で、そのような部分の議論が足りていなかったのかと感じました。そして、他の委員からもありましたが、コロナ禍でもあります。そのようなことも踏まえて、今後、判断・見極めは慎重をお願いしたいと思います。2 年間ありがとうございました。

(香川委員長)

委員の皆さまから貴重なご意見をいただきました。

私のほうからは、委員会を通しての感想を述べさせていただきます。
委員の皆さまには、平成 22 年の役場内での検討から、準備検討委員会、基本構想、基本計画、指定管理予定者公募、の各段階で関わりを持っていただいた方が多くおられました。先ほど、牧山委員からもお話ができたところです。

皆さん、阿見町を愛する人たちです。しかし、検証委員会の委員としてはいかがなものか、第三者的立場から作業できるのか、との思いがありました。かくいう私も、平成 29 年の阿見町観光振興基本計画の作成にかかわっておりました。どちらかと言えば、それぞれの委員が、それぞれの立場から、推進してきた事業でもあったわけです。そのような人が委員として集まって、公正な判断ができるかということについては、凄く不安がありました。

しかし、作業を進めるなかで、その思いはあっさり消えました。委員の皆さまは、むしろ、自己反省も含めて、当時を振り返りながら、ことの経緯を客観的に再構成してくださいました。そのことが、検証の手続きの効率を高めたと、深めたと、いまは、考えております。第三者が白紙から始める委員会では迫れなかった部分にも、アプローチできたのではないかと自負しているところです。

委員長として、当時のお話を伺う場合など、委員の皆さまには、かなり失礼な質問をさせていただいたことも度々あったのではないかと反省しております。

そして、そうしたやりとり、議論を通してできあがった報告書です。町長の直面する政治判断に、阿見町のかじ取りに、報告書の一端でも参考になる部分があるとすれば、委員一同、望外の喜びとするところです。

阿見町のさらなる発展を祈念申し上げ、最後のあいさつといたします。ありがとうございました。

各委員からのあいさつを受け、町長から発言があった。発言内容は以下のとおり。

(千葉町長)

皆さまの様々なご意見を伺い、本当に阿見町を愛していただき、心から感謝を申し上げたいと思います。牧山委員、宮寄委員の話にもありましたが、私自身、運営検討委員会の解散式の際に、牧山委員から前もって、町長自らの声で、皆さまにお伝えいただきたいということで、呼んでいただき、大変ありがたいと思えました。その中で、一番最初に「あなたの顔を見たくない」と委員の方に言われまして、本当にかっかりしましたが、これが委員の皆さまの気持ちなのだと感じました。こういうことを変えようとしているのだなという思いがありました。私は、前々回の町長選挙にも、公約として、道の駅の建設を挙げております。やらないという方向ではありません。ですから、一度も中止と言ったことはありません。しかしながら、政治活動のなかで、町内を歩いていると、コンセンサスが取れていない、民意とは何か、そのなかで、今回皆さまにお諮りしました案件については、各分野から、町民の皆さまから寄せられた声でありました。それは、一部の方からお叱りも受けましたが、全体的に見てどうだ、改めて検証しなくてはいけないということで、今回に至ったわけですが、牧山委員、宮寄委員には賛成の立場だったところから来ていただきました。あのなかにも、全員を検証委員会の委員にさせてくれという要望もあ

りましたが、委員長、副委員長に来ていただいて、議論していただくことが大切であろう、それから、公平性を期すために、殆ど知らない方に集まっただき、各分野からの英知を結集しようということで、始まった委員会であります。それぞれの委員が、それぞれの立場で議論していただき、結集したものを答申としていただいておりますので、これを基に、皆さんの力を無にしないために、しっかりと議論していきたいと思っています。私にとって、大変な勉強だったのが、どのような事業を実施するにも、民意を大事にしなければならないということです。町の責任者として、どのような事業を実施する際にも、住民に本当に説明しながらやっていかなければならないのだと自覚しております。現在、小学校の跡地問題、廃校を存続させてください、これらについても、民意をしっかりと入れていなかったのだという思いがあります。これから、こういったことにもしっかりと自覚を持って、進んでいきたいと思っています。皆さまには、これを機にもっともっと阿見町に来ていただいて、私にとってもご指導いただければと思っています。また、今阿見町の最大の弱点でもある観光につきましても、コロナが収束しましたら、なんとか皆さまに阿見町に訪れていただけるような、まちづくりをしていきたいと思っておりますので、ご助言のほどを申し上げて、あいさつにかえさせていただきます。本当にありがとうございました。

6. 閉会

以上